

2020年6月  
No.20-077a(本)※1

## 検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、ビタミンD欠乏性くる病および骨軟化症の診断目的の検査である下記項目を、25-OHビタミンD(Total)[骨粗鬆症]と同一メーカーが販売するECLIA法試薬に変更するとともに、報告所要日数を短縮いたしますので、取り急ぎご案内申し上げます。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■検査項目/変更内容

項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧
11 1813	25-OHビタミンD :CLEIA	検査項目名	25-OHビタミンD 《ECLIA》[くる病]	25-OHビタミンD :CLEIA
		検査方法	ECLIA	CLEIA
		検体量/保存方法	血清 0.5 mL / 冷蔵 [容器番号:01]	同左
		基準値	ビタミンD欠乏 ・20 ng/mL 以下 ・15 ng/mL 以下であればより確実	同左
		所要日数	3~6日	4~7日
		検査実施料	117点	同左
		判断料	144点/生化学(I)	同左
		報告下限	3.0 ng/mL 未満	4.0 ng/mL 未満
		報告上限	100 ng/mL 以上	150 ng/mL 以上
		報告桁数	小数1位、有効3桁	同左
検査委託先		LSIメディエンス(→1)	同左	

#### ■変更期日

●2020年7月31日(金)受付日分より

以上

## 25-OH ビタミン D《ECLIA》[くる病]

ビタミンDは食事摂取あるいは皮膚への紫外線照射により、体内に供給される脂溶性ビタミンです。その大部分が肝臓において25位が水酸化されて25-ヒドロキシビタミンD(25-OHD)に変換され、ビタミンD結合蛋白と結合して安定的に血中を循環します。ビタミンDが欠乏すると、小児ではくる病や低カルシウム血症、成人では骨軟化症などを引き起こす原因となります。

25-OHビタミンDは2016年8月、ビタミンD欠乏性くる病および骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合を対象に検体検査実施料が新規適用(400点)されました。その後、2018年9月には骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択を目的として実施料が新規適用(117点)されました。

また、今年4月の診療報酬改正により、ビタミンD欠乏性くる病および骨軟化症を対象とした検査につきまして、従来の400点から117点に実施料の改正が行われました。

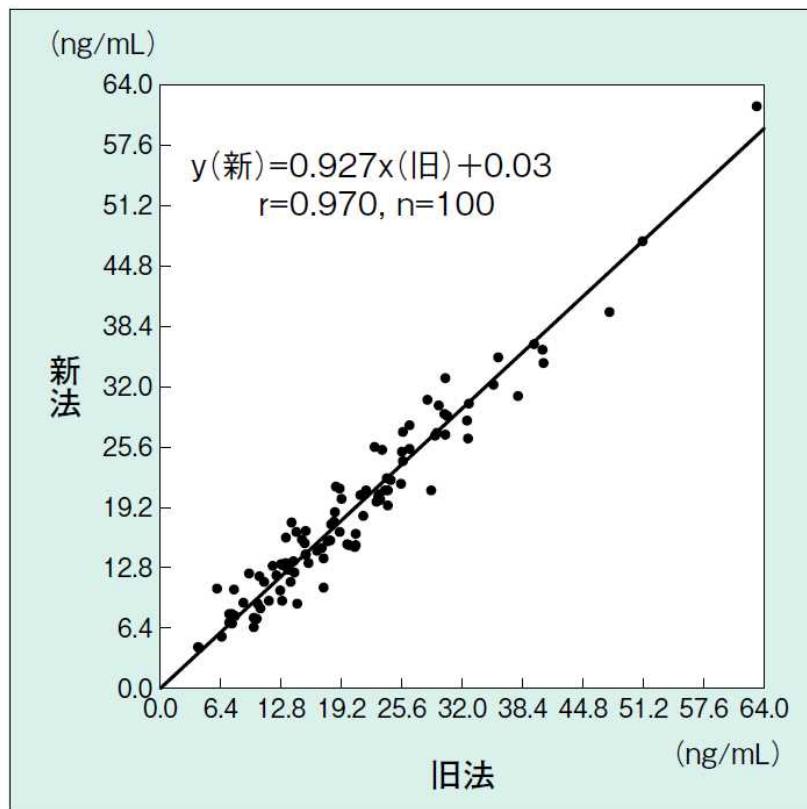
この度、ビタミンD欠乏性くる病および骨軟化症の診断目的の検査である25-OHビタミンD《CLEIA》の測定試薬を、25-OHビタミンD(Total)[骨粗鬆症]と同一の試薬(ECLIA法)に変更するとともに、報告所要日数を短縮いたします。

新旧二法の相関は良好であり、基準値の変更はございません。

### ■検査要項

項目コード	1813
検査項目名	25-OH ビタミン D《ECLIA》[くる病]
検体量/保存方法	血清 0.5mL / 冷蔵 [容器番号:01]
検査方法	ECLIA
基準値 <sup>*1,2,3</sup>	ビタミンD欠乏 ・20 ng/mL以下 ・15 ng/mL以下であればより確実
所要日数	3~6日
検査実施料	117点 <sup>*4</sup>
判断料	144点(生化学的検査(I)判断料)
報告下限	3.0 ng/mL未満
報告上限	100 ng/mL以上
報告桁数	小数1位、有効3桁
備考	<p>*1: 日本小児内分泌学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」に準拠しています。</p> <p>*2: 報告書に印字する基準値は、「コメント参照」でご報告いたします。</p> <p>*3: 高用量のビオチンを投与・摂取している場合、偽高値になる可能性がありますので、投与後は8時間以上空けて採血してください。</p> <p>*4: ビタミンD欠乏性くる病もしくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できます。</p>
検査委託先	株式会社LSIメディエンス

## ■新旧二法の比較



(LSI 検討データ)